

# 誰もが取り組みやすいイチジクの雨除け栽培 ～低コストな簡易雨よけ施設の開発～

農業技術振興センター農業革新支援部

## 【普及活動のねらい】

イチジクは水田でも栽培し易く、植付け3年目には収穫できることから栽培は増加し、現在県内で約10ha栽培されています。しかし、約6割が露地栽培のために、収穫時期の降雨により果実品質が低下し出荷できなくなる等の問題があり、安定生産のためには雨よけ施設の導入が必要です。しかし、現在取り組まれているパイプハウス利用による雨よけ施設は、導入費用が高いという課題があることから、生産者が取り組みやすい低コストな簡易雨よけ栽培の確立について検討しました。



写真 標準の畝幅に対応した簡易雨よけ施設

## 【普及活動の内容】

県内の露地イチジク栽培の畝幅（250～190 cm）に対応できるよう、2タイプの簡易雨よけ施設を開発し、露地栽培が多い甲賀地域と高島地域に実証ほを設置しました。また、実証ほを活用した現地検討会を開催し、生産者の取組が進むように意識向上を図りました。収穫された果実については、市場（滋賀びわこ青果株式会社）と連携し、品質評価を行いました。

## 【普及活動の成果】

簡易雨よけの施設の導入費用は、パイプハウスと比較し約3割の費用で導入ができ、果実品質や収量は露地と比較して改善できました。さらに、簡易雨よけ施設の導入により収益性も向上し、生産者が取り組みやすい技術となりました。

滋賀びわこ青果株式会社からは、「食べてみると糖度は高く、イチジクの風味が強く明らかに違う。ぜひとも簡易雨よけ施設を推進してもらいたい」と評価が得られました。

今回実証ほを設置した甲賀地域では、簡易雨よけの取り組みを増やす計画を持たれています。

表1 施設導入経費

実証ほ	経費 (千円/10a)	対比
甲賀	774	29%
高島	858	32%
パイプハウス	2,700	—

表2 簡易雨よけ栽培と露地栽培における品質と収量

甲賀				高島					
区名	糖度 (%)	果皮色	商品化率 (%)	収量 (kg/10a)	区名	糖度 (%)	果皮色	商品化率 (%)	収量 (kg/10a)
簡易雨よけ	16.3	5.6	96	2,843	簡易雨よけ	14.8	5.0	92	911
露地	15.7	5.5	95	2,115	露地	12.3	4.7	71	499

表3 簡易雨よけ栽培による収益性の改善効果

実証ほ	雨よけ売上	露地売上	売上増	減価償却費	利益増加
甲賀	1,837,000	1,366,000	471,000	77,000	394,000
高島	589,000	322,000	267,000	86,000	181,000

※売上げ金額は、市場平均単価 646円/kgで算出

### ◎対象者の意見

露地では雨が降ると膨れて割れてしまうので品質が落ちる。何とか出荷するには早採りしてしまうが、簡易雨よけ施設の果実は、雨にあたらぬので品質の良い果実が収穫できた。(実証ほA氏：高島)